



# わかすぎ

第  
**118**  
号  
**2007**  
平成19年6月発行



魚の増殖? 栽培漁業?  
種苗生産? ってなに?

P2、P3に掲載



マリアナ諸島南東部にて、県立水産高等学校  
実習船「しろちどり」でのカツオの一本釣り

## INDEX

- 02 わかすぎ時評 4  
魚の増殖?栽培漁業?種苗生産?
- 04 現在の「南伊勢町」、  
ずっと昔は「南伊勢」でした
- 06 子ども達との交流事業を  
通じて考えさせられたこと

- 07 平成19年度事業計画
- 08 (社)青少年育成国民会議  
「家庭の日」絵画・ポスター展  
優秀賞受賞作品  
編集後記

〈編集発行〉

(財)三重子どもわかもの育成財団  
〒515-0054 三重県松阪市立野町1291  
中部台運動公園内

TEL : 0598-22-4911

FAX : 0598-23-7792

URL : <http://www.mie-cc.or.jp>



## 魚の増殖？ 栽培漁業？ 種苗生産？ってなに？ — 先輩から引継ぎ自分のモノとする若者達 —

伊勢志摩地域にある三重県立水産高等学校（明治35年開校）では、県内外の男女約300人が海洋科、機関科、水産製造・増殖科、専攻科で学んでいます。伊勢志摩地域の海を基点に、グアム・パラオ等での遠洋漁業の訓練があります。三重県立水産高等学校のHP（<http://mie.suiko-van.or.jp/index.html>）で、目的を持って勉強している若者のことを知りました。

**松林清剛 校長：**今日、海洋科の3年生が実習船「しろちどり」で25日間の実習航海を終えて帰って来ました。海洋科は大型船の船長（海技士）・小型船の船長（操縦士）の資格取得や、海洋スポーツ（ダイビング、ボードセイリング等）のプロフェッショナルをめざしています。機関科も乗船実習を行っていますが、彼らも大型船や小型船の機関長の資格取得やカツオの一本釣り漁法等を学びます。今日帰ってきた海洋科の生徒は2年生の時に、既に50日間のパラオ航海を体験しています。今航海もかなり疲れて帰ってきたようなので、直ぐに解散し家の方に帰りました。航海から帰ってくると技術は無論、人間的に大きく逞しくなっていますね。自然の力と人間の英知の共存共栄を、体験的に知りますからね。それに、仲間と支えあう50日間の生活ではコミュニケーション力が育ちますね。そろそろあちらの部屋に生徒たちが集まったようですのでよろしくお願ひします。

### 機関科 — キャリアは組織の中の責任感を育成することから —

**Q** 校長室で2年生の時には国際航海を経験すると伺ったのですが、実習中はいかがでしたか。

機関科3年生Eさん：はい、2年時のグアム航海実習はすごく楽しかったです。夜中に起きて当直もありますが、基本的には21時に寝て6時起床で、海の上の生活リズムは快適でした。小さい頃からの夢でした。

機関科は陸上と同じ生活ができるように、電力を発電機で供給することを学びます。ストップしたら停電状態で舵もきかなくなります。船が死にます。当然、魚も全て腐ります。僕達はそれを実際に見て学びます。もし、失敗したら大変なことになって取り返しがつかないからです。カツオの一本釣りもしますよ。



**Q** 船の心臓部の仕事ですね。高校卒業後の進路について考えていますか。

機関科3年生Aさん：専攻科へ進んで、船を動かす海技士の資格を取って機関長をめざします。兄もこの卒業生で航海士です。今はかつお船に乗って“かつおの一本釣り”をしています。

**Q** お兄さんは航海士ということは船長さんになれるのですね。お兄さんの影響はありますか。

Aさん：はい、兄や兄の友だちの話を聞いて・・・

**Q** 海が好きなお兄弟で船長と機関長はステキですね。日本水産学会で発表された人も船に乗ったの？

水産製造・増殖科2年生Bさん：僕です。水産製造・増殖科は、小型実習船「はまゆう」で水質調査します。

### 水産製造・増殖科 — 「おいしいものを安心してたくさん食べてもらいたい」 —

**Q** 三重県の特産「真珠」とか？

Bさん：真珠もそうですが、水産の中で有効に利用できる魚や様々な生き物について勉強しています。それと食品の管理と製造です。

**Q** 日本水産学会ではどのような内容について発表したのですか。

Bさん：僕が1年生の時に生物同好会という部活でしていた研究と3年生の先輩の研究を一つにあわせて、僕が代表ということで発表しました。学会は3月末から4月にかけていて、先輩は卒業していたので僕が発表しました。

内容は、高校の近くの片田地区に汽水池という海水と淡水が混ざった場所があって、そこで大発生したアオサを先輩達が見つけたんです。先輩達はそのアオサを使って水をきれいにして、アオサが増えたのをサザエに食べさせる循環型養殖システム研究です。僕は生物学的な立場から、アオサは光合成について研究を行い、その能力が非常に高く、成熟せずに増えて大発生するというのを発表しました。



**Q** 私たちが食べているアオサとは違うのでしょうか。

Bさん：あれは養殖した「ヒトエグサ」のことで細胞の層が一層です。「アオサ」は二層なので食べるのとビニールみたいで、苦味があります。

**Q** Cさんも水産製造増殖科で勉強しているんですね。どのようなことですか。

水産製造・増殖科2年生Cさん：今後の水産生物の増殖について勉強して、活かせる仕事をしたいと考えています。

**Q** 「養殖」って聞く言葉ですけど、「増殖」って始めて聞く言葉ですが・・・

Cさん：「養殖」は限られた生簀のような場所で養殖して販売ですが、「増殖」は栽培漁業みたいな感じで、放流して、海域でそれを増やそうとする仕事です。例えば、この海域で少なくなったものを卵から種苗生産して増やして、最終的に漁業で捕れるようにする。各県に栽培漁業センターがあります。

こんな話知ってますか。「イワナ」って川の魚ですが海へ行くと「アメマス」、「ニジマス」が海へ行くと「スチールヘッド・トラウト」、「アマゴ」は「サツキマス（カワマス）」って名前になります。

水産製造・増殖科2年生Dさん：海だと川に比べてとんでもない水の量でスペースが広がるので大きくなるし、海の餌には栄養があるので、数年経って川に戻った時には完璧に大きくなっている。魚の味自体も少し変わります。

**Q** 食べ比べたいですね。船のエンジニアを目指して勉強をしている人は、勉強はいかがですか。

Eさん：エンジニアとは機関士のことです。学校で1年時に実際に動かして学んで、2年時の実習船で、見て学ぶ要所を確認します。実習船での経験を活かしてマリンエンジニアの資格を取ります。姉がここの卒業生で、今は他県の高等専門学校で姉の目指す職業へ向けて頑張っています。姉や姉の友だちの生き方に、そういうのも良いな、と思って水産高校へきました。今日は僕帰るわ、と言っても、友だちから「もう少しやってこうぜ」と言われて勉強をやり始めたりします。ここは、みんな、

挑戦する雰囲気があって・・・、好きなことを勉強するために来ているんだから、そんな風になるのかなあ。今は、3年間で海技士3級の資格を取得できるように頑張っています。



**あとがき** 伝統校は、先輩の研究を後輩が受け継いだり、時代の最先端の学びへと職業人を目指す心意気が常に繋がっていることでしょうか。彼らの学びを支えている先生たちは、高校生の「自己管理」と「働く意味の自覚」を重視してらっしゃるように感じました。同席してくださった先生から「解説」をいただきながらのインタビューとなりました。皆様、貴重なお話をありがとうございました。（文責：中西智子）



浅井 正道さん

## 現在の「南伊勢町」、 ずっと昔は「南伊勢」でした

平成17年10月1日に南勢町と南島町が合併して南伊勢町が誕生しました。南伊勢町青少年健全育成活動の様子を事務局へ伺いましたら、18年度は南勢支部として南勢中学校文化祭で生徒意見文発表会、南島支部として郷土の偉人「河村瑞賢」<sup>かわむらざいけん</sup>（講師は浅井正道さん）の学習会をしています。合同活動は講演会と研修会です。今回は、旧南島町の古い行事である「浅間祭り（せんげんまつり）」と「竈（かま）」のことに詳しい浅井正道さんから、地域の行事と後継者問題などを伺いました。

### 郷土の学び昨今 — 素材は海と山 —

浅井：私が学校に勤めていた頃、学校の浜があって5月頃はその浜で布海苔（ふのり）を子ども達が採ってくるんです。その布海苔を干して、これが糊。それを売って児童会の資金にしました。

中西：布海苔って、洗濯物の糊付けに使いましたね。

浅井：そうそう。今は左官屋さんがよくつくように壁に混ぜるんです。壁に使うと接着剤です。

中西：今は学校の浜はないんですか？

浅井：今は学校の浜はあっても、学校は忙しくて採りに行きません。小学生が本当に数えるくらいしかおらんね。郷土ならではの体験学習が少なくなって・・・。

ここでは大和時代の遺跡で製塩に使った土器片が見つかっています。南北朝時代には国司北畠氏<sup>こくしまたはたけ</sup>から野見坂より南10里の地を保障されて、海では皆が共同して鯨も取っていたようです。江戸時代には河村瑞賢が航路を開くなど、治水の偉業を成しています。私は山のことでは「浅間祭り（せんげんまつり）」と海のことでは「竈（かま）」について少々勉強しました。

南島では「浅間（せんげん）さん」っていうのがあります。<sup>このはなのさくやひめ</sup>木花之開耶姫を祀る浅間さん。南島はどここの山の上にも木花之開耶姫を祀る浅間祭りがあります。女の神様なので男の人がお参りする慣わしですが、最近では女の方も行きます。山の神さんは、秋には田んぼへ来て秋が終わると山へ入って山の神になるという、自由自在に形を変えて、農業と林業と、漁業のお守りをする。面白いのは、古和浦では山の神を祀るのに、木で百姓さんの道具とか、漁師さんの道具とかの道具をたくさん作りましてね、それを注連縄<sup>しめなわ</sup>にかけるんです。

中西：ぶらさげるんですか？

浅井：それが、実に上手に作ってある。毎年作るのはえらく（つらく）なってきましてね、最近では難しい作り物は次の年に使うということになっています。注連縄に飾るのが普通はまあ、白い紙ですなあ。ここみたいに木で百姓さんや漁師さんの道具を飾りに使うのは変わっている。それと、ここは海岸地方だから、山の神さんが好まれるのはオコゼ。

中西：オコゼですか？

浅井：うん。醜い顔してますな、オコゼっていうのは。

中西：でも、おいしいですよ。

浅井：食べるとおいしい。しかし顔が怖い。冬、皆が山の神の祭りに要るからって採ります。それを夜中に懐に入れて、のぼりを立てて山に登ります。シーンと静かなのでカラス役っていうのが2名、山の木の上から「カアカアカア」と鳴くんですわ。そうすると、進行役がカラスが鳴いたからポツポツ祭りを始めようかと、神さんの祠<sup>ほこら</sup>を開けて始めます。禰宜さん、神官がお唱えすると、オコゼの2人の人が出てきて、持ってきたものを上げて、昔の言葉で故事の言い合いがあるわけです。古和浦の坂

へやってきたイノシシやサルやその他のけだものは、「この古和浦から向こうへ行け」と。これはね、海の方から外国船や幕府の船、えらい人が来ると接待せいと言われるのがえらい（くたびれる）から、外国船も幕府の船も古和浦へきた者は向こうへ行ってくれと、全部追っ払う意味です。そういうやり取りして、最後にオコゼをちょっとだけ見せるわけです。そうするともう1人の人は、これは山の神の代わりだと思いますが、「もそっと」もう少し見せろって言う。「ならぬ」と言う言葉が終わると、皆が「わあっ」て笑うのです。これを、「山の神の初笑い」というわけで、初笑い。

中西：それが、1月の行事。

浅井：7日です。むろん真夜中の行事ですから、今は火事が起きると怖いので、前から防火用水の用意もして、きちんとします、そんな祭りです。いわゆる五穀豊穰を山の神に祈るっていうね。山の神の大好きなオコゼを見せると、山の神はおいしいから食べたいので、もっと見せよと言う。人間どもがならぬと山の神を困らせるという、そういう面白い故事のやり取りがあるんです。昔の言葉で、今の方には覚えにくいので、紙に書いて読みながら言います。

中西：そういう昔の行事は、お年を召した方だけですか？子どもや若者は？

浅井：子どもも参加しますけれども、夜中のことですので、よっぽど関心のある子どもです。正月7日ですからね、昔からの行事でも若い人には魅力がありません。だんだん消えていきます。理由は価値観の相違というのがまずある。もう一つは、若い人はここには住みにくいという事情がある。他所へ出ていますから、正月は3日になるとそっちへ帰って行く。

## 郷土の学び昨今 — 昔、「南伊勢八か竈」という本があった —

中西：「竈（かま）」のことを教えてください。竈（かま）というのは、「かまど」のことですね。海水で塩をつくる時の火を焚く「かまど」を「竈（かま）」とっていいのでしょうか。

浅井：南伊勢八か竈とか南島八か竈とかいうんですけれど、正しくは昔からおおかたがま 大方竈、おうかがま 相賀竈、みちゆくがま 道行竈、あかさきがま 赤崎竈、おかたがま 小方竈、とちのきがま 栃木竈、たなはしがま 棚橋竈、さらくわがま 新桑竈と全部で8集落にあって、南伊勢八か竈と言うことになっている。八ヶ竈八幡神社もある。今で言えば、製塩業です。

中西：昔から「南伊勢」とって言ってたんですか。

浅井：言った。昔は「南伊勢八か竈」のことを書いた本（『南伊勢竈方古文書資料集』）もあった。この山は、三重県の国司北畠さんの山。北畠国司が権利を持っていた。しかし、住民は人の邪魔せんところへ畑や田んぼを作った。その間に塩を焼くことを考え付いたわけ。南北朝時代やね。塩焼くにはどうしても、木が要る。で、木が欲しいと。そこらへんの木をちょこちょこ切ったんだろけれど、皆で定住生活はできん。分かれてあっちこっちへ行って住んでたんやろな。寛永5年（1628年）の名寄帳には八か竈になった。

中西：今も子どもたちが学校の体験学習などで塩を作ることをしているのでしょうか。

浅井：してないですが、総合学習でやればよろしいなあ。海水に含まれる塩分は3%ですか、鍋で海水を炊いたらできる。歴史と合わせて、何で塩が必要なのかを学ぶことは大事。体験から命の尊さが学べます。

さいごに 浅井さんは南伊勢町の少子高齢化の現実へ危機感を持ちながらも、「方座浦の浅間さんせんげん」のように、「他所へ住んでもその祭りには皆帰って来る地区もある」と誇りにしてらっしゃいます。私は“地域だから生まれた文化があり、文化があるから人が集まる”ということかなと思いました。地域文化にもっと注目する必要があるのではないのでしょうか。（文責：中西智子）



## 子ども達との交流事業を通じて

# 考えさせられたこと

桑名市教育委員会長島支局

生涯学習課主幹 山口 道子

最近、青少年による凶悪犯罪事件が増加していますが、彼らの口から「ムカついたから」「カッとなってしまったから」などというあまりにも身勝手な自己中心的な考えで、すぐに行動して事件を起こしてしまったということをよく耳にしますが、どうしてなのでしょう。

今の子ども達は、友達と一緒に遊んでいて言い争いでけんかになった場合に「自分の思いを言葉に出し相手の意見も聞くことで、お互いが理解し相手を認めて仲直りをする。」ということができなくなっているの

ではないでしょうか。自分の意見も言わなければ相手の意見も聞かずに、ウヤムヤのままであってもなんとも思わない、他人に無関心な子どもが増えているような気がします。又、テレビゲームのバーチャル体験で、殴りあいの喧嘩をしても相手は何度でも生き返って復活する。ゲームと現実の相違が恐ろしい犯罪を引き起こしているとも報道されています。

私は子どもの居場所作りである「和く輪くウィークエンド」という地域住民主導型の世代間交流事業を担当しています。その事業では、地域ボランティアの方々子ども達が楽しく共同して活動しています。子ども達にとってこの活動に参加することにより、社会人として生活するうえで必要な基本的ルールを学ぶこともできます。この活動は、地域住民と行政が協力して行っている素晴らしい事業ですが、決して子ども達がただ喜ぶことばかりをしているのではなく、汗をビッシヨリとかくような作業もおこなっています。

さて「相手の目を見て話し、そして聞く」ということはあたりまえのことなのですが、今の子ども達はどうか。テレビを見ながらの食事では、家族での十分な会話ができるはずありませんし、家族が別々に自分のリズムで生活をしているので一緒に茶の間の団欒で、談笑することがめっきり少なくなったような気がしませんか。



すすく農園活動



自然を学ぼう「東殿名（ひがしとのめ）地区」

日常生活で起こった些細なことを家族に伝える。そのことを家族共通の話題としてみんなで会話することで、家族みんなの気持ちや考え方を理解できるようになるのではないのでしょうか。そして、そのことを毎日毎日繰り返すことにより、家族の異変を誰かが敏感に察知しすぐに家族の話題として取り上げて話し合うことにより、異変の芽をすばやく摘み取ることができるのではないのでしょうか。これが「家族の絆」だと考えます。

# 平成19年度事業計画

(財)三重こどもわかもの育成財団 青少年育成グループ

- 「少年の主張三重県大会」 平成19年度から県内各地域に持ち回りで開催することを承認いただいております。初年度は三泗地区（四日市市・菰野町・朝日町・川越町）でお願いしており、以下の予定で準備を進めています。

- ・開催月日：平成19年9月2日（日）
- ・開催場所：四日市地域総合会館あさけプラザ（四日市市下之宮町296-1）

これを契機に、少年の主張県大会をより一層啓発して会場への参加者数ならびに作文の応募者数を増やすことに努めていきます。

平成19年度からは、作文の応募者全員に参加賞を贈呈します。なお、その財源として、企業・団体からの協賛を得るよう取り組んでいます。

開催地に当たった市町民会議には、会場の確保のアトラクション（中学校や地域の団体に協力をさせていただきます。）の企画などの協力を依頼しています。

## 平成20年度からの少年の主張三重県大会の開催予定地区

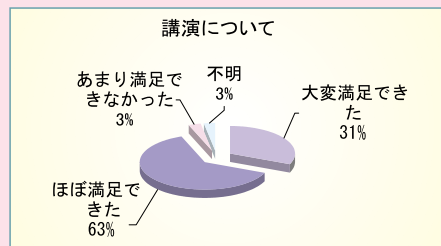
平成20年度	南勢志摩地区（伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・玉城町・大紀町・南伊勢町）
平成21年度	津地区（津市）
平成22年度	鈴亀地区（鈴鹿市・亀山市）
平成23年度	伊賀地区（伊賀市・名張市）
平成24年度	松阪地区（松阪市・明和町・多気町・大台町）
平成25年度	紀北地区（尾鷲市・紀北町）
平成26年度	桑名地区（桑名市・いなべ市・東員町・木曾岬町）
平成27年度	紀南地区（熊野市・御浜町・紀宝町）

平成18年度は、参加校17校（県内中学校等196校）、参加生徒数2,506人（県内生徒数56,000人）でした。

- 「市町民会議会長および事務局担当者会議」 平成19年度は、10月7日（日）に各市町民会議会長・事務局と育成財団との話し合いを持つ方向で準備を進めています。年度末は従来どおり、各地区において平成19年度の事業報告と平成20年度の事業計画について会議をもちます。
- 「機関紙「わかすぎ」」 平成19年度は9,000部を発行します。市町の育成指導者にとって、青少年の健全育成に役に立つ内容にしていきます。そのために、市町民育成会議には、地域の特色ある活動を掲載するためにご協力をお願いしています。今回の第118号には、桑名市教育委員会長島支局 生涯学習課 主幹 山口道子さんに原稿を依頼しました。
- 「地域活動支援事業」 平成18年度は事業計画を5月中旬で締め切り、7月中旬に審査会を持って夏休みの事業ができるようにした結果、13団体への助成となりました。平成19年度についても、一層早くから事業計画を立ててもらえるよう、7月上旬には、審査会を行い7月中旬からの運用を可能にする方向で準備を進めています。
- 「メール連絡網」 育成財団と市町民会議との連携強化を目的として、育成財団の事業や市町の事業、あるいは市町間の研修会も相互の交流のため参加できるよう、メールやホームページで案内しています。また、市町民会議と育成財団との間で、メール通信ができるよう連絡網の整備をしてきましたが、平成18年度末をもって整備が完了しましたので、平成19年度からは、メール連絡窓口等で迅速な対応をするとともに、資料および情報を案内していきます。
- 「地域活動者研修会」 平成18年度から育成財団の費用で、連絡協議会及び市町民会議主催で地域活動者研修会を実施しています。（17年度までは国民会議の財源による。）平成19年度も育成財団の費用で各地域の特色を生かした研修会を行なっていきます。

●「青少年育成指導者のための三重県スキルアップ研修会」

平成18年12月2日（土）、標記事業を松阪グリーンホテルにおいて開催しました。  
アンケート結果は円グラフ（右）のとおりです。  
平成19年度も育成財団主催で実施していく予定です。  
平成19年度は12月16日（日）に、三重県総合文化センターで開催します。



●「県の委託事業（青少年の生き生き創造力活用事業）」 平成18年度は、6団体に対して交付しました。平成19年度も県内の高校生世代が有する柔軟な発想や豊かな創造力・行動力を活用した事業に対して支援します。

●「M祭！2007（三重のこども祭り）」平成18年度のM祭の協賛事業としては、「三重の青少年活動紹介」とM祭の主な対象である子どもに焦点を絞った「サイエンスショー」を実施しました。平成19年度は、総合文化センター内、祝祭広場にて神島潮騒太鼓（小学生の部：「島っ子太鼓」、中高生の部：「ドンドコジュニア」）と、3人の博士によるサイエンスショーを行ないます。

★★★  
**（社）青少年育成国民会議「家庭の日」絵画・ポスター展**  
**優秀賞受賞作品（全国第2位）**  
 松阪市立中川小学校2年（当時） **葛西 司** くん の **作品**

題名：**お好み焼きパーティー**



松阪市教育委員会教育長より表彰風景

毎月第3日曜日は「家庭の日」

毎月5日は「青少年の日」

※この他にも、葛西くんは、小林壽一松阪市教育委員会教育長、中西正倫中川小学校長からも功績を称えられ表彰されていました。  
 ※平成19年度も「家庭の日」絵画・ポスターを募集しています。詳しくは、お住まいの地域の市町教育委員会（青少年担当）又は、当財団（TEL 0598-22-4911）までお問い合わせください。

**編 集 後 記**

青少年育成活動の大人達は、子どもから「おじさん」「おばさん」と呼ばれると、“親しみを込めた呼び方”と喜んで受け入れている自分を感じるのではないのでしょうか。私がいつ頃から「おばちゃん」と呼ばれるようになったのかは不明。先日は保育所で「おばあ〜ちゃん」と言いながら背中へおぶさってきた子がいた。思わず「どうしたの」と答えてしまった。子どもの直感は鋭い。うれしかったです。

『わかすぎ』編集長 中西 智子